

① 授業の基本情報（学部・学科、科目名、配当年次、履修者数、オンライン授業形態）

外国語学部・経営学部共通開講第二外国語科目 第二外国語「韓国・朝鮮語Ⅰ」 1年以上配当履修者数 29名 動画配信（+希望者参加のリアルタイム配信）

② 教員の基本情報（氏名、所属）

新井保裕 外国語学部

③（可能なら）学生のコメント

前期授業評価アンケートでは以下の回答が得られた。

- ・動画の右下に先生が実際の発音の口の形を提示して下さった点が勉強する上で非常に役に立った。外国語の難しい発音はわかりにくいので、こうした動画を添付して下さると助かる。
- ・韓国語の発音を口を大きくやってくれたので、わかりやすかった
- ・丁寧な説明でわかりやすい授業でした。

④ 授業をオンライン化するにあたって心がけたこと（工夫点、苦労）

学生が集中できる学習環境とするため、1動画あたりの時間を10~15分とした（学生には繰り返し視聴するように指示）。教科書の内容をまとめ、補足したpptをもとに講義を実施する一方で、受講者の教科書購入を前提とし、教科書なしでは完全に理解が難しい内容とした。第二外国語初級は文字と発音が重要であるため、担当教員が顔を出し、発音時の口の動きを受講者が確認できるようにした。前期アンケートではオンデマンドでは発音学習が不十分になるという回答があったため、後期からは、指定授業時間内に30分のリアルタイム会話演習を設け、希望者のみが参加できる形とした（前後の講義によってはリアルタイム参加が叶わない学生もいるため、成績評価の平等を保つために成績評価には加えていない）。オンラインで作文試験を行い公正な評価を行うために、受講者には前期の間にハングルのタイピングも覚えてもらうことで、オンライン上での韓国・朝鮮語クイズ、試験実施が可能となった。

⑤ 今後のオンライン授業に向けて

第二外国語は定員が30名と定められているため、2021年度以降は対面での授業実施を予定している。ただし今後の社会情勢によってはオンラインの実施を余儀なくされる場合があり、それに備えてオンライン講義の準備も行う。なお対面授業でもハイフレックス形式で実施し、対面受講、オンライン受講の学生がそれぞれ教室内スクリーン、個人のスクリーンを通じて教員の発音の様子をチェックできるようにすることで、ソーシャルディスタンスを保った形での発音指導を行うほか、電子媒体での作文提出を原則とし電子添削を実施することで、受講形態の違いによる学習の差が出ないように配慮する予定である（すでに他大学で実施済み）。